歎異抄（↑3）

阿弥陀仏の本願のはたらきが不可思議であるからといって、自分の犯す悪を恐れないのは、すなわち「本願ぼこり」であって、これもまた浄土に往生することができないということについて。

このことは、本願を疑うことであり、また、この世における善も悪もすべて過去の世における行いによると心得ていないことなのです。

善い心がおこるのも、過去の世の善い行いがそうさせるからです。悪いことを考え、それをしてしまうのも、過去の世の悪い行いがはたらきかけるからです。今は亡き親鸞聖人は、「うさぎや羊の毛の先に付いた塵ほどの小さな罪であっても、過去の世における行いによらないものはないと知るべきである」と仰せになりました。

またあるとき聖人が、唯円房は私のいうことを信しるか」と仰せになりました。そこで、「はい信じます」と申しあげると、「それでは、わたしがいうことに背かないか」と、重ねて仰せになったので、つつしんでお受けすることを申しあげました。すると聖人は、「まず、人を千人殺してくれないか。そうすれば往生はたしかなものになるだろう」と仰せになったのです。そのとき、「聖人の仰せではありますが、わたしのようなものには一人として殺すことなどできるとは思えません」と申しあげたところ、「それでは、どうしてこの親鸞のいうことに背かないなどといったのか」と仰せになりました。

続けて、『これでわかるであろう。どんなことでも自分の思い通りになるのなら、浄土に往生するために千人の人を殺せとわたしがいったときには、すぐに殺すことができるはずだ。けれども、思い通りに殺すことのできる縁がないから、一人も殺さないだけなのである。自分の心が善いから殺さないわけではない。また、殺すつもりがなくても、百人あるいは千人の人を殺すこともあるだろう」と仰せになったのです。このことはわたしどもが、自分の心が善いのは往生のためによいことであり、自分の心が悪いのは往生のために悪いことであると勝手に考え、本願の不可思議なはたらきによってお救いいただくということを知らないでいることについて、仰せになったのであります。

かつて誤った考えにとらわれた人がいて、悪を犯したものをお救いくださるという本願であるからと、わざわざ悪を犯し、それを往生のための行いとしなくてはならないなどといい、しだいにそのよくないうわさが聞えてきました。そのとき聖人がお手紙に、『いくら薬があるからといって、好きこのんで毒を飲むものではない』とお書きになられましたのは、そのような誤った考えにとらわれているのをやめさせるためなのです。決して悪を犯すことが往生のさまたげになるということで

はありません。

戒律を守って悪い行いをしない人だけが本願を信じることができるのなら、わたしどもはどうして迷いの世界を離れることができるだろうか」と、聖人は仰せになっています。このようなつまらないものであっても、阿弥陀仏の本願に出会わせていただいてこそ、本当にその本願をほこり、甘えることができるのです。だからといって、まさか自分に縁のない悪い行いをすることなどできないでしょう。

また聖人は、海や河で網を引き、釣りをして暮しを立てる人も、野や山で獣を狩り、鳥を捕えて生活する人も、商売をし、田畑を耕して日々を送る人も、すべての人はみな同じことだ」と仰せになり、そして「大はだれでも、しかるべき縁がはたらけば、どのような行いもするものである」と仰せになったのです。

それなのにこのごろは、いかにも来世の往生を願うもののように殊勝に振舞って、善人だけが念仏することができるかのように思い、あるときは念仏の道場に張紙をして、これこれのことをしたものを道場に入れてはならないなどという人がいますが、それこそ、外にはただ賢そうに善い行いに励む姿を見せ、内には嘘いつわりの心をいだいていることなのではないでしょうか。

阿弥陀仏の本願をほこり、それに甘えてつくる罪も、過去の世の行いが縁となってはたらくことによるのです。だから、善い行いも悪い行いもすべて過去の世からの縁にまかせ、ただ本願のはたらきに身をゆだねるからこそ、他力なのであります。『唯信鈔』にも、阿弥陀仏にどれほどの力がおありになると知った上で、自分は罪深い身であるから、とても救われないなどと思うのであろうか」と示されています。

本願をほこる心があるからこそ、他力に身をゆだねる自分の信心もまさに定まっていると思われます。

自分の罪悪や煩悩を滅し尽くした後に本願を信じるというのであれば、本願をほこる思いもなくてよいでしょう。しかし、煩悩を滅したならそのまま仏になるのであり、そのようにすでに仏になったものには、五劫という長い間思いをめぐらしてたてられた阿弥陀仏の本願も、もはや意味のないものでありましょう。

本願ぼこりはよくないといましめる方々も、煩悩を身にそなえ、清らかでないように見受けられます。それは、本願をほこり甘えておられることにはならないのでしょうか。どのような悪を本願ぼこりであるといい、どのような悪を本願ぼこりでないというのでしょうか。本願ぼこりはよくないというのは、むしろ考えがおさないのではないでしょうか。

以上、現代語版から引用させて頂きました）